

## 頑張る柏の先生たち ～子どもたちの学び・成長を止めないために～



大津ヶ丘第二小学校の1年生の教室にて

長期間にわたる休校やコロナ禍での学校生活が子どもたちに及ぼす影響について、保護者の皆さんだけでなく、先生たちも心配をしています。しかし、先生たちは日頃から、未来を生きる子どもの姿を具体的に想像しながら「つけたい力」を意識して指導にあたっているため、今の状況の変化にも柔軟に対応しながら、日々活動に取り組んでいます。そこで今号では、小学校の低学年にスポットを当て、学校の取り組みや先生の思いについて調査しました。

問い合わせ 指導課☎7191-7369・FAX 7191-7380、学校教育課☎7190-5779・FAX 7191-1212

### 保護者や子どもたちの心配は？

保護者や子どもたちは、学校生活のどのような点を心配しているのか、市教育委員会が市内の小学校4校でアンケートを行いました。その結果、学習面や体力面、さまざまな行事がなくなったことなどへの心配が挙げられました。

### 学習の遅れへの対応は？

市教育委員会が調査した結果、長期休みの短縮や行事の見直しにより生み出された時間を使って学習を進めたことで、全ての小・中学校で、今年度の学習内容を今年度中に終わることができることを確認しました。また、休校期間中に家庭で学習した内容についても、振り返りを行って学習を進めています。

### 先生たちの今の心配は？

「まなふる」の取材チームが市内7つの小学校を訪問し、1・2年生の担任の先生たちにさまざまな話を聞いたところ、学習の遅れへの対応は見通しが立った一方、長期の休校や集団活動の制限、行事の中止等による影響について心配をしていることが分かりました。



〈保護者〉

〈子どもたち〉



〈先生たちが影響を心配する事柄〉

この「まなふる」(P1～4)は抜き取ってお読みください

# 先生たちが今大切にしている4つのこと



ここでは、先生たちが特に大切に考えている4つのポイントを、学校の取り組みと併せて紹介します。

## 大切なポイント1



## 学ぶ楽しさを伝える

小学1・2年生で学ぶ「生活科」は、具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を目指す教科です。直接体験することを大切にすることで、学ぶ楽しさや達成感を知り、そこで学習したことを次の学習や生活に生かそうとする意欲や態度を育てていきます。この意欲や態度は、他の教科や中学年以降の学習にもつながる大切な力です。休校期間中、家庭での学習は1人で進められるドリルやプリントが中心になっていたため、先生たちはこうした力や意欲、態度を育てるためにも、限られた時間や活動の中で、「学ぶことは楽しい!」ということを全力で伝えています。



### 田中小学校では

自宅で過ごす時間が長い今だからこそ、実際に外に出て自然や季節を感じる時間を大切に、1年生が「虫探し」を行いました。虫が得意な子がそうではない子をリードしながら、みんなで一緒になって楽しく探すことができました。



### 柏第四小学校では



毎年、子どもたちが考えたコースの中から1つを選び、コース上にある警察署や高等学校、お店の皆さんを訪ねながら地域を歩く2年生の「まちたんけん」。今年は、地域の皆さんとの交流は後日学校内で行うことにし、考えたコース全てを回るプランに変更しました。地域のかたたちとの交流は減ってしまいましたが、まち全体を見て回れたことにより、いつも以上に多くの「発見」ができました。

「自然との関わりでその面白さや不思議さに気付かせたい」「友だちと協力することで、さらに楽しく深い学びをしてほしい」という願いを持って、学習を進めました。「初めて網を持ったよ」「バッタの足にとげとげがある」「虫の触り方を教えてもらったよ」と、ミニ探検でしたがいろいろな学びがありました。これからも、子どもがワクワクするような活動を学びにつなげていきたいと思います。

#### 先生のコメント



田中小学校1年担任・田口薫先生▲

## 大切なポイント2

## 友だちとの関わりを深める



小学校の低学年は、集団生活・活動の中で、振る舞い方やルールなど、人とのより良い関係をつくるための基本を学ぶ大切な年代です。友だちとのトラブルも、先生の支援によって友だちとの関わり方を学ぶ大切な場になります。こうした友だちとの関わりを通して、「人と関わることは楽しい」という気持ちを理解しながら、人と関わる力を磨いていきます。

そのため、友だちの顔がマスクできちんと分からなかったり、班になって給食を食べることができなかったり、グループ学習に制限があったりするなど、友だちと関わる機会がいつもより少ない状況を補うことができるよう、先生たちは「友だちと一緒に楽しい!」と感じられるような学級づくりをしています。

### 酒井根小学校では



出会ったときからマスクを着けているのが当たり前な1年生。少しでもお互いのことを知ることができるよう、唯一マスクを外す給食の時間を使い、みんなの顔をビデオカメラで黒板にライブ中継しました。クラス全員で見合い「○○さんの顔見つけた!」と楽しい時間になりました。

#### 先生のコメント



▲高柳小学校1年担任・篠塚文恵先生

### 高柳小学校では



1年生の学級活動で行った「クラス会議」。それぞれが困っていることの解決方法をみんなで考えました。例えば、「兄弟げんかを無くしたい」という問題に対して「自分のおやつをあげて仲直りする」「一緒に散歩する」など、みんなが自分の事として真剣に考えることを通して、学級の仲間意識が芽生え、全員の居場所ができていくのだと強く感じました。

「クラス会議」は、1年生なりの自治活動へつなげていけたらいいなという思いを持って、実践しています。どの子の提案・意見も尊重される場になるよう心掛けていて、自分の意見を発言する活動を繰り返し行う中で、安心して発表ができるようになってきました。こうした活動も、友だちと関わることの楽しさや良さを感じることができるとも思っています。

大切なポイント3

# 異学年と交流する

異なる年齢同士の関わりを通して、お互いの良さや可能性を実感することができる異学年交流。特に高学年は「お手本になった」「役に立った」という自信や誇りで、低学年は「感謝」や「憧れ」の気持ちを持つことが、それぞれの成長につながっていきます。

かつては、近所や家庭での交流の中で自然と育まれていたものかもしれませんが、少子化が進む現在では、**学校が大切な交流の場の1つ**となっています。接する児童の多さを考えて、今はまだ直接的な交流を控えている学校も少なくありませんが、映像や物を介する、時間を限る、人数を絞るといった工夫を凝らして交流活動を進めています。



大津ヶ丘第二小学校では

小規模校という特性を生かし、1・2年生でミニ運動会を行いました。この行事は、2年生が1年生に「運動会はこんな行事なんだよ」と教えるために、計画から準備、係活動の全てを担当しました。1年生には「上級生への敬意と感謝」を、2年生には「上級生としての自覚を促すこと」を狙いとし、この経験を通して、より日常的に異学年を意識した生活ができるようになりました。

先生のコメント

低学年の、低学年によるミニ運動会を見事にやり抜き、2年生からは「1年生が喜んでくれた」、1年生からは「2年生みたいになりたい」という声が多く聞かれ、十分に目標を達成できたと感じています。異学年との関わりから学ぶ体験を大切に、これからも子どもの可能性は無量大であると信じて、学校の教育理念である「全力でチャレンジ」を実践していきたいです。



大津ヶ丘第二小学校2年担任・平井世紀先生▲

富勢西小学校では

特設クラブ活動の練習がない時間を利用して、雨の日には6年生が昇降口で1年生のぬれたランドセルを拭いてあげるという活動を自主的に始め、1年生が6年生の頼もしさを実感し、感謝する機会となりました。また、6年生を中心に高学年が登校後に落ち葉掃除を行っていて、こうした高学年の姿が、低学年の子どもたちの「こうなりたい」という目標につながっていくのだと改めて実感しました。



大切なポイント4

# 体力をつける



子どもの体力については、以前から、運動する子どもとそうではない子どもの二極化が見られることや、低下傾向が依然続いていることが課題となっていました。そこに今回の休校が重なったことで、**運動する機会が少なくなり、また休校期間に行うべき体験が不足している状況**が見られます。

低学年の体育は、「運動遊び」を通して**運動の楽しさや体力を養いながら、意欲的に運動する態度**を育てることを目標としています。今の運動不足に不安を抱える状況を踏まえ、けがをしないよう準備運動を十分行ったり、うんていなどいろいろな動きをする運動を意識的に取り入れたりするなどして、体力づくりを進めています。

先生のコメント

遊具を使った運動遊びを通して身のこなしを覚えたり、自分の体を支える力が身に付くことでけがの防止につながったりします。子どもたちが「遊具で遊ぶことって楽しい」と、遊びの1つとして運動を楽しみながら体力を向上させてほしいと思うとともに、その中で「できた」という達成感を味わえればと考えながら、体育の授業を進めています。

柏第七小学校1年担任・塩崎聡子先生▶



柏第七小学校では



体育の授業では、普通の遊びの中で身に付いているはずの体力や腕、肩の力が低下しているように感じました。体の軽いうちに腕の力を付けておく必要があることから、1年生の体育の授業では、うんていやのぼり棒などの運動をできるだけ継続して取り入れるようにしました。

専門家に聞きました!

## 「今の子どもたちへの心のケア」

柏市スクールカウンセラー スーパーバイザー 高井千鶴先生

今年度は、新しい生活様式を模索しながらのピリピリした状態で学校が始まりました。このような中で、お子さんはさまざまな反応を示しています。「体を動かす場が制限されて落ち着きがなくなった」「家でゲームばかりしている」という声が聞こえる一方、特に小学校低学年のお子さんについては、「この生活を当たり前のように受け止めて普通に過ごしているので、かえって不安である」と心配する声も聞かれます。いずれにしても、お子さんはストレスフルな状態にあるのは間違いありません。

しかし、ストレスを抱えているのはお子さんだけでなく、社会全体も同じです。そのような中で今できることは、このような生活下であっても、変わらずに向き合うことができている点に目を向け、大事にすることではないかと思えます。特にお子さんに対しては、無理なくできていることをきちんと褒めましょう。その言葉は、お子さんに大きな自信と安心感を与えます。そしてそれが、お子さんがストレスに向き合う力の源になっていきます。

◎スクールカウンセラーは、学校現場で子どもや保護者、教職員などの相談に乗り、解決のために働きかけを行う人です。スクールカウンセラーへ相談したいときは、お子さんが通う学校へお問い合わせください

## 広報かしわを無料でお届けします!

市の施策やお知らせ、イベントなどの情報を掲載した「広報かしわ」を、無料で定期購読しませんか。

毎月1日と15日に発行している広報かしわは、新聞折り込みで市民の皆さんにお届けしています。また、新聞を購読していない世帯については、無料で広報紙を宅配しています。無料宅配のお申し込みは、広報広聴課 ☎7167-1175へ電話するか市のホームページからお願いします。



◀市のホームページはこちら



# 学校における 新型コロナウイルス 感染症対策

市立学校では、新型コロナウイルスを「持ち込まない」「広げない」ために、新しい生活様式を踏まえた感染予防の取り組みを実践しています。特に市内小・中学生の感染経路のおよそ9割が「家庭内感染」となっています。ご家庭においても新しい生活様式へのご協力をお願いします。  
 図学校保健課 ☎7190-5781 ・FAX7191-1212

## 学校での取り組みを紹介 ～感染経路を断つために～

新型コロナウイルス感染症では、「換気の悪い密閉空間」「多数が集まる密集場所」「間近で会話や発声をする密接場面」という3つの条件（3つの密）が発生する場で、集団感染のリスクが高まるとされています。

学校活動では、児童・生徒や教職員の健康観察を徹底するとともに、この3つの条件を避けるよう努めています。

また、感染者や濃厚接触者、医療従事者などだけでなく、その家族に対して誤解や偏見に基づく差別やいじめをしないよう指導しています。

### 換気の徹底



教室などでは、常時、2方向の窓やドアを同時に開けて換気を行っています。

### 給食のときはどうしてる？



給食を取りに行く時は、間隔を空けて並んでいます。

### 健康観察の徹底



登校時に健康観察票（体温、健康状態）を確認しています。登校前の健康観察を忘れたときなどは、学校で体温の測定と健康状態の確認を行っています。

### 身体的距離の確保とマスクの使用



座席の配置は可能な限り距離を確保し、対面にならないように工夫しています。登下校中を含め、身体的距離が十分とれない場合はマスクを着用しますが、息苦しさを覚える場合などはマスクを外すよう指導しています。



ひまつ飛散防止のため、机を向かい合わせにせず前を向いて食べています。

## 学校にウイルスを 持ち込まない ために

～ご家庭にお願いしたいこと～

### 手洗いの徹底



外から帰ってきたとき、トイレの後、食事の前などには、石けんを使って手を洗いましょう。

### 体を守る力をつける



十分な睡眠と適度な運動、バランスの良い食事を取って免疫を高めましょう。

### 体温測定と体調確認



登校前に、体温の測定と体調の確認をしましょう。学校から配布されている健康観察票に毎日の体温と健康状態を書いて、忘れずに持参させてください。

### 体調不良時は自宅で休養



発熱や風邪症状がある場合は、登校を控えて自宅で休養しましょう。風邪症状等がみられるときのお休みは、欠席扱いにはなりません。

### 学校への連絡



お子さんや同居のご家族が、「濃厚接触者となった」「検査をすることになった」など、感染が疑われる場合には必ず学校へ連絡してください。

### 思いやり



ご家庭でも「誰もが感染してしまう可能性がある」ことを理解して、感染者やそのご家族の心情に配慮した対応を心掛けましょう。

「まなふる」への感想をお寄せください！



「まなふる」へのご意見、ご感想、ご要望、取り上げてほしいテーマなどをお寄せください。

